

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

✿ 日本自立生活センター-自立支援事業所 2023年5月26日発行 第146号

JCIL 合同交流会

スキマタイムズをお読みの皆さまこんにちは。
日本自立生活センター(JCIL)事務局長の下林です。
さて、今回私からお知らせしたいことがあります。下記の日時・場所にて、JCIL 合同交流会を行います!!
コロナ禍で、3年ほど行えなかった合同交流会ですが、今年はみんなで大いに交流しましょう♪
合同交流会では、日本自立生活センター(本体)、ワークス共同作業所、自立支援事業所、それぞれメンバーがどういった活動をしているのかをパワポ等で報告し合います。
知ってるようで知らないこと、今更ちょっと聞けないことなどなど意外なことを知るきっかけになるかもしれません。皆さん、ぜひ参加してほしいです!
みんなで楽しく過ごしましょう。



6月8日(木)
13:30-16:30
ウイングス京都
2F セミナー室

★京都市男女共同参画センター ウイングス京都★
京都市中京区東洞院通六角下る誤射山町 262
地下鉄烏丸御池駅(5番出口)
地下鉄四条駅・阪急烏丸駅(20番出口)より徒歩5分



ヨーロッパに行ってきました報告

～ 介助者編 その1～

2月下旬のヨーロッパ渡航の報告会を、大藪と岡山中心で先月行いました。ウィーンの地下鉄はバリアフリー度が高く利用しやすいことや、ヨーロッパは予想していたよりも重度障害者の自立生活が進んでいないことなど、ウィーンとブダペストで見聞きしてきたあれこれを報告しました。その中で、同行介助者の報告や感想をもっと聞きたいという声があったので、数回に分けてスキマタイムズに掲載したいと思います。今回は、阪本さんと大石さんです。（大藪、岡山）



阪本 林太郎

大藪さんの介助者の一人としてウィーンへ行かせてもらいました。ありがとうございました！私なんかが行ってよかったのか？という気持ちもありますが、それはそれで連れていってくれた大藪さんに失礼ですし、せっかく行かせてもらったので、この報告に限らず少しでも何かを還元できたら幸いです。

約10日間の介助時間は、普段の約2.5倍！ウィーンは山と河に囲まれたきれいな町。市内の車イスでの移動もエレベーターが大きかったり地下鉄や路面電車に自動 or 手動スロープがあったりして乗りやすかったです。中間車両には乗れなかったり、旧型車両は段が大きすぎて乗れなかったり（5分も待てば乗れる車両が来る）、都市間移動の長距離特急は乗り口が高くて前々から頼んでおいた手動油圧リフトを使わないと乗れなかったりもします。でも色々な人と日常的に出会う首都の人々だからなのか、地下鉄の折り畳み座席をすごく自然に譲ってくれたり、日本の鉄道会社の駅員さんたちの「あー、時間が…」みたいな余裕のなさ比べて遅延してもokという構えがあったり、ゆとりがある気がしました。

慣れない土地で密に働いたので、いつもより疲れてたり眠かったりするなかでの介助も多かったのですが、短期決戦ですし「いつもと違う場所」がもたらす高揚感もあって何とかなりました（ほんまか？）。でも眠すぎていつも以上にムスツとして見えたり、声や動きが疲れてたりして、声かけづらかったりするかも…という日も幾度もありました。ただ、表情を作って愛想よく振る舞ったりするのが私は下手っぴなのですが、「介助者」なので何とかなくなってしまいます（やりたいことの芽を潰してるかも…）。他方で介助を使って生活する大藪さんは、「介助者として zero project の集まりに参加してる健常者の私」以上に心身ともに疲労し、元からの体力のゲージも私より小さいかもしれないのに、めっちゃめっちゃ疲れていてもホテルへ帰るために、夕飯食べるために、寝るために等々あれやってこれやってを介助者に指示しながらせんなん。半日以上身体に合わない椅子に座り続けた飛行機の辛さとかも自由に機内を歩き回れる私とは桁違いなはずです。毒づきたくなるようなこともようけあったのではないのでしょうか。日常生活でも感じてはる方も多いだろうその邪魔くささを、私自身の余裕のなさからいつもより少しだけ身近に想像できた旅だったかもしれせん。

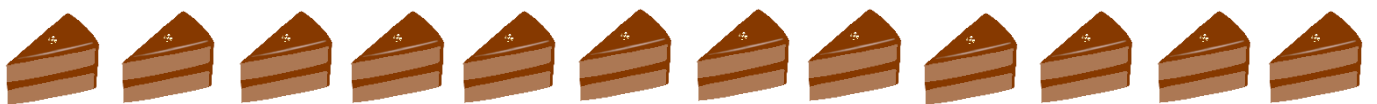
ウィーンの感想と聞かれてまず思い浮かぶのは、「無事に帰って来られてよかった」「とにかく疲れた」という気持ちです。しかし、原稿を書くにあたって当時考えていたことが思い出されてきたので、書いてみようと思います。

私は介助歴が長くありません。なので、今回の旅に向けて研修を始めた時は、「こんなに言葉での確な指示がある介助もあるのか」と驚きました。身体的位置、服の着方、食事の仕方などその都度細かに指示があるので、基本的にはその指示を聞いて介助を行います。

一方、私が普段関わっている方の中には、言葉だけでなく、表情や目線、身体の動き、声のトーンや行動で意思を伝えてくださる人もいます。なので、介助の際は普段の様子やその時の状況をひっくるめながらその人の伝えたいことを想像し、「〇〇をしましょうか?」「〇〇で合っていますか?」など伺いながら介助をしていました。しかし、今回細かな指示のある介助を経験したことで、もしかしたら自分の関わっている方も、こちらに伝えきれない意思がもっとたくさんあるのかもしれないと思うようになりました。例えば、食事の順番をもっと指示したい、もう少し身体をずらしてほしいなど、思っているけれどこちらが聞いていない、気付いていないからそのままになっていることもあるかもしれません。もちろん、相手が伝える必要がないと判断していることもあるはずなので、何でもかんでも細かに聞けばよいという訳でもないのですが、より想像力を働かせながら、広い視野を持って介助をしたいと感じました。

また、指示を聞きながらの介助も「言われたことをやるだけ」ではなく、迷いもありました。特に今回の旅は海外という慣れない場での生活です。介助者としてどこまで指示を待ち、どれくらい自主的に動くべきかは迷いながらの1週間でした。基本的には指示を待った方がいいのですが、やるのが満載で体力的にも厳しいスケジュールなので自分から動いた方がいい場面もあるなと思いつつ、その匙加減は難しいなと思いました。どんな介助も、その時の状況や自分と相手の関係性によっていろんなゆらぎがあるのかもしれない。

ウィーンの旅は体力的に大変ではありましたが、改めて介助について考えるきっかけになりました。ウィーンに行けるように様々な場面でお力添えいただいたみなさま、ありがとうございました。



第3回卓球バレー

場所：多文化交流ネットワークサロン
担当：宇田・野瀬



6月6日(火)午後1時~3時



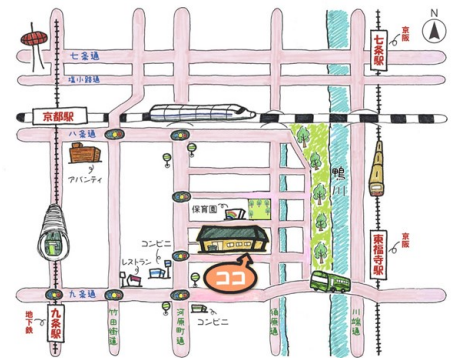
第三回はスタジアムを移し、多文化で行います！いつもと場所が少し離れてしまいましたが、広々と使えるので楽しく安全にできればと思っています。ぜひ、皆様のご参加お待ちしております!!

生存権を求める京都デモ2023スタート集会

生活保護おじさん来る!!



YouTube, TikTok, Twitterなどソーシャルメディアで圧倒的「圧」で生活困窮者にどこに助けを求めればいいのか情報を届ける“**生活保護おじさん**”こと佐々木大志郎さん。今回、私たち実行委員会の招きで京都に来ていただくことになりました。活動に込めた思い、誰もが安心して暮らせる社会のために何が必要か大いに語っていただき、また、私たちもともに交流したいと思います。



日時: 6月11日(日)13:30

TikTok

場所: 多文化共生ネットワークサロン(地図参照)

ささきだいしろう

講師: 佐々木大志郎さん(つくろい東京ファンド・トイミック)

主催: 生存権を求める京都デモ2023実行委員会 共催: アルンデイ

連絡先: TEL075-671-8484 FAX075-671-8418(JCIL気付、担当小松)

Email seizonkendemojitu@gmail.com

参加費: 無料



今年もやるぞ~!

生存権を求める京都デモ 2023は10月1日!!